

建設経済委員会成果報告書

令和7年10月14日

犬山市議会議長
大澤秀教様

議員名 柴山一生

下記のとおり、調査の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年10月8日（水）～ 令和7年10月10日（金） （ 2 泊 3 日 ）
(2) 視 察 地	三浦市、加須市、日光市
(3) 視察の種類	
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	1日目
	三浦市 ガストロノミーツーリズム
	まず、理解したいのは、まだ三浦市のこの取り組みは端緒についたところであるということ。これまでに行ったことは、主に富裕層向け、コンテンツを開発するために、東京在住の情報発信者に対し
	一人約15万円の地域の食体験コンテンツを提供し、反応を取り纏めたということ。結果はおおむね良好。本年2月には、三浦市が売却
	した旧三浦市福祉会館を利活用し、地産食材を使った三浦パエリアの試食会を開催した。この城山地区のこの施設は将来の三浦市
	イタリア化を目指してのスタートポイントとなる目論見。
	2日目
	加須市田んぼオーナー制度
	北川辺ライスパークは、市民が農業体験を通し、農業を理解しまた
	一方では農業者や農村の活性化を目指して平成7年に開設された。
	田んぼオーナー制度とは、1年契約で区画オーナーとなり、年3回



の農業イベントに参加。①春の田植え②夏の草取り③秋の稲刈り。それぞれ、半日くらいのイベントで、昼食も込み。最後の収穫後は米ももらえる。年間5000円会費。

3日目

日光市 スローモビリティ

日光市は、人口74,000の犬山と同規模の自治体。ただ、面積は1400平方キロと犬山の20倍近く。観光客は、日光を中心に年間1020万人で、犬山の倍。宿泊客は300万人。その内外国人宿泊客は16万人。

今回の視察ポイントは、日光東照宮などのある世界遺産地域とその横にある西町地域を結ぶ、公共交通機関の電気バスとその運行状況。令和4年4月から試験的に運行されている。地元のバス会社に運行を委託し、バス製造は近隣のシンクトゥゲザー社。令和7年度の市の補助金は、743万円。PRに110万円。バスの車両価格は3300万円。令和8年度が事件運行の最終年度。現在の利用客数は、年間3,4万人だが、採算ベースに乗せるにはその3,4倍は必要。

4条（道路運送法4条と思われる。現在は21条。）に移行する時に収益が出せるかは不明。収益出すためには、土日運行、ガイド案内付き運行などの新たな施策を打ち出さないと無理だろう。

実際にバスに乗ってみて感じたのは、外国人客が多く、途中の「化け地蔵」という駐車場で彼らが下車した事。どうもこのスポットはミシュランガイドに紹介されているようで、外国人客の訪問が多いようだった。

このバスの運行には、やはり苦勞が多く、ルート作成においても、路線バスが入れないような狭い道を選んだ莉、速度が20キロ以下なのだが、それでも交通の妨げにならない道路を選ばなければいけない事。

犬山市への提言

①ガストロノミーツーリズムにおいては、食の高次元化はもちろんだが、アコモデーションも重要。犬山においては、対岸の各務原の城山を再開発して風光明媚なレストランを復活することが鍵となるであろう。

②ぜひ犬山でも実施してほしいのが、田んぼオーナー制度。ただ、やはり拠点施設が必要。トイレ、休憩場所、駐車場がなければ人は集まらない。

③分散した観光地の連携をどのように図るかだが、犬山は、城下町、モンキーパーク、リトルワールド、明治村、古墳などをつなぐ事になるだろうが、それぞれが一日仕事なので、連携しても一気に遊覧することは無理。もしやるとすれば城下町内を走ることで、現在の人力車の運行の方が犬山的で現実的。

この電気バスは犬山では不要だろう。